



BALL PARK CURRICULUM ー習慣化によるスポーツ教育ー

GSA APPROACH | GSAの具体的アプローチメソッド

MAY 2025

GSA | Ball Park MVVとカリキュラムで育てる力

□ Mission

子供たちを“自活へ導く”サードプレイスを作る

学校や家庭では学びきれない子供たちが“自ら考え、行動する力”を育む第三の場所

□ Vision

自然に子供たちが世界に出ていける状態を作る

無理なく、自然に。子供たちが自らの力で世界へ羽ばたいていく、その土台を育む場所

□ Value

スポーツ×教育×ビジネスの進化版を作れるチーム

スポーツと教育の現場に、ビジネスの視点を融合
子供たちの未来に、本質的に必要な価値を創出



GSA | Ball Park カリキュラム

非認知能力 × コーディネーション能力 × 習慣化 × スポーツ教育

① **意欲** やる気を引き出し、継続する力
(ポイント) 目標・成功体験・楽しさ・仲間の影響

② **忍耐力** 困難に向き合い、あきらめず努力する力
(ポイント) 継続・成長・ストレス耐性・目標達成に関与

③ **自制心** 感情や欲求をコントロールする力
(ポイント) 冷静な判断・誘惑の対処・集中力

④ **協調性** 他者と協力し、チームで力を発揮する力
(ポイント) 信頼関係・対立回避・貢献の姿勢

⑤ **対応力** 変化に柔軟に適応する力
(ポイント) 問題対応・環境順応・挑戦への前向きさ

⑥ **創造力** 新しい価値やアイデアを生み出す力
(ポイント) 柔軟な発想・独自性・変化対応

⑦ **行動力** すぐ動き、やり遂げる力
(ポイント) チャンスをつかむ力・試行錯誤・実行力

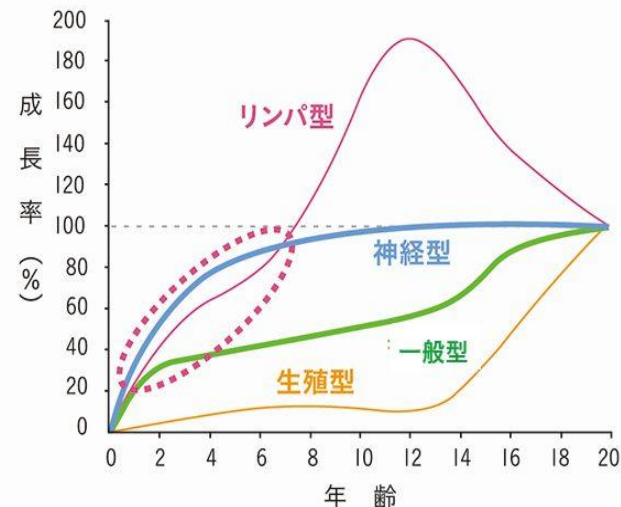
非認知能力を定性評価し、
「自活力」を体得する
(自ら考え、行動できる力)



「できる」
「少しできる」
「まだできない」
などの段階で記録

育成年代のステージ分け

名称	年齢	対象期	トレーニング要素
プレ・ゴールデンエイジ	5歳～8歳	幼稚園・小学校低学年	スキルと動きの体操
ゴールデンエイジ	9歳～12歳	小学校高学年	スキルと動きの習得
ポスト・ゴールデンエイジ	13歳～15歳	中学生	スタミナ
インディペンデントエイジ	16歳～18歳	高校生	筋力



「スキヤモンの発達曲線」
0歳からの人の成長発育を20歳を100%として考え、
ヒトの器官や機能の発育、発達には「リンパ型」「神経型」
「一般型」「生殖型」の4つのパターンに分類される。脳神
経や視神経などの神経は、生まれた直後から6歳ごろま
でに成人の80～90%まで発達し、12歳ごろに100%
近くなる。

参考文献:『発達のめやす』ジャック幼児教育研究所

7つのコーディネーション能力

名称	役割
定位能力	相手やボールなどと自分の位置関係を正確に把握する能力
変換能力	状況に合わせて素早く動作を切り替える能力
連結能力	関節や筋肉の動きをタイミングよく同調させる能力
反応能力	合図に素早く正確に対応できる能力
識別能力	手や足、用具などを精密に操作する能力
リズム能力	動きを真似したりイメージを表現する能力(リズム感)
バランス能力	空間や移動中における身体のバランスを維持し崩れた体勢を立て直す能力

習慣化の4つのステップ

きっかけ

「楽しむ」3原則 ①成功体験 ②競争
③仲間が存在を知る機会を作り、自ら
「考える準備」を促す

欲 求

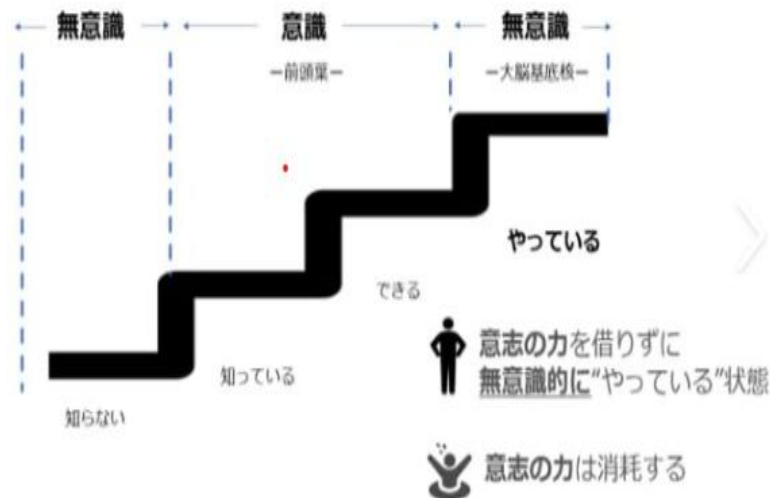
「やってみたい」「成功したい」という
気持ちを引き出す

反 応

実際に自分で判断し、行動に移す

報 酬

「できた」「工夫できた」と実感できる
成功体験を得て、向上心を抱く



参考文献:「複利で伸びる1つの習慣」ジェームズ・クリア

このサイクルを毎回繰り返すことで、“自ら考えて行動する習慣”を自然(無意識)に育むことができる

①

■ 「成功」体験

- ・成功する喜びを体感し「笑顔」が増える
- ・小さな成功が、意欲的になる

②

■ 競争

- ・勝敗にかかわらず、競争する喜びを知る
- ・相手の存在から、リスペクトを覚える

③

■ 「仲間」の存在

- ・仲間と協力する喜びを知る
- ・仲間と助け合う心を学び、信頼関係を築く

■ 「失敗」の克服

- ・努力して達成する喜びを知る
- ・諦めない強い心が育まれる

■ 夢中

- ・好きなこと、興味のあることを見つける
- ・集中力が育まれる

■ 貢献

- ・仲間のため、チームのために行動する喜びを知る
- ・「貢献」することがチーム力に繋がることを知る

■ 評価

- ・指導者や仲間から、褒められる喜びを知る
- ・成長を実感する喜びを知る

■ 挑戦

- ・一歩踏み出す勇気をつくる
- ・失敗を恐れない心が育まれる

ENJOY

GSAが掲げる「楽しむ」源泉項目

年間カリキュラム(習慣化のステップと非認知能力)

ゴール:「自活力」を体得し、次年度へ継続する(成長し続ける場所)

月	テーマ(楽しむ源泉項目)	非認知能力	コーディネーション能力	球技(例)	習慣化のステップ
4月	「成功」体験	意欲	定位・識別	ラグビー・野球・ハンドボール	[きっかけ] 体を動かす”楽しい”を感じる
5月	「失敗」の克服	忍耐力	変換・反応	フライングフットボール・ラウンドネット	[欲求] 失敗経験からチャレンジする意欲
6月	評価	自制心	リズム・バランス	フットサル・ラグビー・ハンドボール	[反応] 自ら実行
7月	競争	協調性	変換・バランス	サッカー・野球・フットサル	[報酬] 「できた」の実感
8月	夢中	対応力	変換・連結	ラウンドネット・ラグビー・ハンドボール	[きっかけ] 新たな動きの発見
9月	挑戦	創造力	反応・リズム	フライングフットボール・フットサル	[欲求] 自ら考える(アイデア)
10月	「仲間」の存在	行動力	定位・バランス	野球・フットサル・ラグビー	[反応] チーム貢献による協力行動
11月	貢献	全体統合	全体統合	ハンドボール・フライングフットボール	[報酬] 強みの発見と活用
12月	自ら目標設定	全体統合	全体総合	ラグビー・野球・ハンドボール	[習慣化] 自ら考えて行動する力の定着
1～3月	成長の振り返りと次年度の準備期間	全体統合	全体総合	フットサル・ラウンドネット・野球	[習慣化] 自ら考えて行動する力の定着

※多球技経験を通じて、子供の球技選択肢を広げると共に、子供に合うスポーツを見つける

1日タイムスケジュール(次回へ繋げる習慣化サイクル)

ゴール:「きっかけ～報酬」体験を経て、次回へ繋げる

時間60min (Total)	内容	目的	習慣化ステップ	コーチ(レクチャー)
0-5 (5min)	オープニング+テーマ発表	心と体の準備	きっかけ	目的/アスリートコーチ経験談
5-15 (10min)	フィジカル	準備運動とコーディネーション能力	きっかけ+欲求	W-up(習慣化ステップのスタート)
15-25 (10min)	ボールフィーリング	球技特化型スキル(様々なボール)	反応	球技特性が生む成功体験と失敗談
25-40 (15min)	ゲーム	課題解決ゲーム	反応+報酬	「楽しむ」源泉項目の説明 ①成功体験②競争③仲間の存在
40-55 (15min)	ゲーム	球技特化型ゲーム	報酬	達成感・成功体験による モチベーション維持
55-60 (5min)	クロージング	フィードバック	次回へのきっかけ	アスリートコーチによるポジティブコメント (次回へ繋げるため)

※1度の体験から成長を実感し、「次も来たい」と思えるプログラムを作る

球技特性による教育的価値

① 多様な身体スキルの獲得

- ・異なる球技を通じて、さまざまな動き方・道具の扱い方・身体の使い方を経験できる
- ・コーディネーション能力(反応・バランス・空間認知など)が自然と育つ

② 課題対応力・適応力の育成

- ・球技ごとにルールや戦術が異なるため、変化への柔軟な対応力が鍛えられる
- ・環境の違いを楽しみながら、応用力、問題解決力が身につく

③ 非認知能力の発達

- ・チームプレーでは、協調性、自己制御、忍耐力、意欲などが問われる
- ・多様な状況での経験が、自己肯定感や内省力の成長につながる

④ 得意・不得意の違いを理解する

- ・競技によって得意、不得意が変わることで、他者への理解、自己理解が深まる
- ・「誰もが得意な場面を持てる」経験が他者受容、共感力を育てる

⑤ 自分に合ったスポーツとの出会い

- ・幼児期、小学生期に多球技を体験することで、自分に合った競技やスタイルを見つけやすくなる
- ・将来のスポーツ継続率、自発的な選択につながる

球技特性による動作取得と課題解決

(例1)

- ① 種目
 - ・ラグビー／ハンドボール
- ② 目的
 - ・仲間と連携しながら「状況判断」をする力を育てる
 - ・ボールを持たないときの「周囲を見て動く力」を伸ばす
 - ・攻守の切り替えを素早く行う柔軟性を育てる
- ③ ポイント
 - ・チーム内で作戦を話し合い、自分たちでプレーを組み立てる
 - ・「パスをつなぐ」「スペースを見つける」など考える場面を多く設定

(例2)

- ① 種目
 - ・野球／ラウンドネット
- ② 目的
 - ・ボールを打つ、キャッチする、パスする動作の中でタイミングを読む力を育てる
 - ・ラリーを続けるために「相手を思いやるコントロール力」を養う
 - ・プレッシャー下でも冷静に判断し、行動できる力を高める
- ③ ポイント
 - ・「次に何をするか？」を子ども自身に考えさせながらプレーさせる
 - ・ラウンドネットではラリーが続く喜びを感じながら協調性も育む

親（親子）がアスリートから学ぶ「ボールパーク習慣化ステップ教育」（1回／月）

講義

アスリート経験による習慣化とモチベーションについて

実技

多球技経験による習慣化モデルの構築
きっかけ⇒欲求⇒反応⇒報酬

教育における

“Scaffolding :
スキャフォールディング”

足場かけ

レベルUpへのいつかなくなる小さなサポート



習慣化

意識 ⇄ 無意識（連続）⇒ 習慣化

複利で成長を促す仕組み